

20 ていしょうじさんじゅうのとう 貞祥寺三重塔



指 定 県 宝 平成 4 年 9 月 10 日
 所在地 前 山
 所有者 貞 祥 寺



貞祥寺三重塔は、南佐久郡小海町松原湖畔の諏訪上下大明神別当神光寺に嘉永 2 年 (1849) に再建された。慶應 4 年 (1868) の神仏分離令による廃仏毀釈運動で神光寺が廃寺となり、明治 3 年 (1870) 4 月 18 日に貞祥寺に売り渡され、境内に移築されたものである。

建築様式は和様を主に唐様をとり入れ、高さは 16.75m。屋根の反り、三重の扇垂木、初・二・三層の尾垂木、初層の棧唐戸（縦横の杵の中に板をはめて作った戸）の唐様を除く外は、和様で調和のとれた美しい塔である。垂木数は初層 34・二層 30・三層 26 の通減で、相輪の長さとの釣り合いもよく、全体が美しくまとまっている。組み物は和様と唐様尾垂木を用い、三手先で屋根を支え、間斗を多用しつつも束を用いない所に特徴がある。

塔の建築は、野沢村の小林源蔵昌長 (1795～1858) ・昭長 (1825～1883) 父子を中心とする宮大工で、そまかた 屋根師・けん 鋳物師も郷土出身者であった。

また、傷みの著しかった相輪・三層屋根などの保存修理を平成 2 年 (1990) 9 月から開始、平成 3 年 (1991) 1 月工事を完了した。